

| | | | | | | | | | |
|----------------|--|-------------|----|---------|---|------|---------------------|-----|----|
| 授業科目名 科目コード | 起業家塾（Schooling for Startups） 382056-14300 | | | | | 担当教員 | 栗井 英大 （クリイ ヒデヒロ） | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 必修・ 選択区分 | 選択 | 単位 数 | 2 | 配当年次 | 2年次 | 開講期 | 集中 |
| 科目特性 | 地域志向科目／課題解決型AL／外部講師招聘科目 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ① 授業のねらい・概要 | | | | | | | | | |
| <p>ビジネスプランの作成を通して起業家精神や社会人基礎力を身につけることを目指している。事業アイデアの発想法、アイデアを事業化するポイントについて学んだ後は、グループに分かれて実際に事業計画を立案し、プレゼンテーションを行うなど、インプット、アウトプットを組み合わせた授業である。</p> | | | | | | | | | |
| ② ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | | | | |
| <p>1 地域社会に貢献する姿勢／2 職業人として通用する能力／3 専門的知識・技能を活用する能力／4 コミュニケーション能力／5 情報収集・分析力を養う。</p> | | | | | | | | | |
| ③ 授業の進め方・指示事項 | | | | | | | | | |
| <p>授業は、用意されたステップに沿い、受講生が自主的にグループを形成、作業内容、スケジュール管理等の全てを行う。欠席、遅刻・早退は原則、認めない。講義終了後、県内外の学生向けビジネスプランコンテストへの応募を強く推奨する。希望者には個別に事業計画のブラッシュアップを行う。 ※事前課題：事業アイデア3案を発想し、所定のシートに記入して期日までに提出すること。</p> | | | | | | | | | |
| ④ 関連科目・履修しておくべき科目 | | | | | | | | | |
| <p>経営学・企業経営研究の履修を推奨する。</p> | | | | | | | | | |
| ⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安 | | | | | | | | | |
| <p>(i) ビジネスプランを作成するための情報収集、情報分析ができる。 (ii) 事業アイデアを発想し、構造化し、差別化のポイントを構築できる。 (iii) 聴衆を引きつけるプレゼンテーションができる。</p> | | | | | | | | | |
| ⑥ テキスト（教科書） | | | | | | | | | |
| <p>講義冒頭でレジュメ、ワークシートを提供する。</p> | | | | | | | | | |
| ⑦ 参考図書・指定図書 | | | | | | | | | |
| <p>特になし</p> | | | | | | | | | |

| ⑧ ルーブリック | | | | | |
|-----------------|----------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|----------------------------------|------------------------------|
| 評価項目 | 評価基準 | | | | |
| | S | A | B | C | D |
| | 到達目標を越えたレベルを達成している | 到達目標を達成している | 到達目標達成にはやや努力を要する | 到達目標達成には努力を要する | 到達目標達成には相当の努力を要する |
| (i) 情報収集、情報分析 | 新たな手法を用いてビジネスプランに至る調査を実施することができる | 自発的にビジネスプランに至る調査を実施することができる | ビジネスプランに至る調査を実施することができる | 指示された範囲で、ビジネスプランに至る調査を実施することができる | 指示された範囲の、ビジネスプランに至る調査が不十分である |
| (ii) 発想、構造化、差別化 | 独創的で差別化されたビジネスプランを作成することができる | 差別化されたビジネスプランを作成することができる | ワークシートに基づき構造化されたビジネスプランを作成することができる | ワークシートに基づきビジネスプランを作成することができる | ワークシートに基づいたビジネスプランを作成できない |
| (iii) プレゼンテーション | 聴衆を引きつけるプレゼンテーションができる | 聴衆に正確に理解されるプレゼンテーションができる | 聴衆に理解されるプレゼンテーションができる | 聴衆にプレゼンテーションの内容がほとんど理解されない | 聴衆にプレゼンテーションの内容が理解されない |

| ⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法 | | | | | | | | |
|------------------------------------|---|------|-----|------|-------|-----------|-----|------|
| 学習到達目標（評価項目） | 試験 | 小テスト | 課題 | レポート | 発表・実技 | 授業への参加・意欲 | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 40% | | 30% | 30% | | 100% |
| (i) 情報収集、情報分析 | | | 20% | | | 10% | | 30% |
| (ii) 発想、構造化、差別化 | | | 20% | | | 10% | | 30% |
| (iii) プレゼンテーション | | | | | 30% | 10% | | 40% |
| フィードバックの方法 | ステップごとに随時、また、2、3日目のプレゼンは担当教員から、4日目の最終プレゼンは審査員から個別にフィードバックを行う。 | | | | | | | |

| ⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等） |
|--|
| 受講生の主体性を重視した授業である。多様な意見がぶつかり合い、気づきが新たな創発を生む過程を経験してほしい。なお、4日間の作業量は多く、進行管理に留意されたい。 |

| ⑪ 授業計画と学習課題 | | | |
|-------------|---|--|-----|
| 回数 | 授業の内容 | 授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物） | |
| 1 | 1 日目 ・ガイダンス ・社会人基礎力事前評価 ・グループ編成 ・講義（事業計画の作り方） ・アイデアの絞り込み(2案) ・アイデアの構造化 ・最終案の決定 ・1次プレゼン（→担当教員） | 事業アイデア3案（事前提出） 1次プレゼンのフィードバックを構造化の内容に反映 | 90分 |
| 2 | 2 日目 ・事業環境分析 ・2次プレゼン（→担当教員） | 集めた情報、資料の整理、分析 2次プレゼンのフィードバックを構造化の内容に反映 | 90分 |
| 3 | 3 日目 ・事業計画書の作成 ・ビジネスモデル図へ展開 ・プレゼンシートの作成① | プレゼンシートの内容、表現力について過不足を検討 | 90分 |
| 4 | 4 日目 ・プレゼンシートの作成② ・最終プレゼンテーション ・審査◆ ・社会人基礎力事後評価 （凡例）◆印：外部講師 | 事業計画の見直しに向け、審査員のコメントを整理 | 90分 |

| ⑫ アクティブラーニングについて | |
|--|--|
| <p>課題解決型ALを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1日目：全員が自分の考えた事業アイデアを発表、話し合いにより自主的にグループを形成。 ・第2日目・3日目：グループ単位で事業テーマを設定、各メンバーが主体的に情報収集、傾聴、問題認識、課題発見、論理的思考、批判・創造的思考などを実践し、事業アイデアの発想、アイデアの構造化、事業環境分析、差別化ポイントの構築、事業計画書及びビジネスモデル図を作成する。 ・第4日目：作成した事業アイデアをパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションを行う。 | |

※以下は該当者のみ記載する。

| ⑬ 実務経験のある教員による授業科目 |
|--------------------|
| 実務経験の概要 |

平成 9 (1997) 年 4 月～平成 28 (2016) 年 3 月まで、株式会社第四銀行に在籍。そのうち、平成 15 (2003) 年 3 月～平成 24 (2012) 年 6 月まで、(財)新潟経済社会リサーチセンターに在籍。研究員として、新潟県経済の調査分析および業界動向等の調査レポート作成業務に従事した。また、中小企業診断士として、新潟市立図書館主催の「起業・経営相談」の相談員として 7 年間従事経験あり。

実務経験と授業科目との関連性

地域金融機関への勤務経験、様々な業種のレポート作成に携わった経験を生かし、事業環境の捉え方、事業アイデアの発想、構造化、差別化、見える化といった、事業計画作成のポイントについて、理論と実践両面の知見を基に、分かりやすく説明する。